



みかん

生理落果を 迎えます



果樹林産センター
杉本 悠太郎

管内の平成30年産の着花調査の結果、葉花比24枚／花と着花の多い樹が目立ちます。また、執筆時の長期予報によると、6月は雨が多く気温が高いと予想されており、病害虫が発生しやすい環境の中で、防除できる日が少ないかもしれません。少ない防除チャンスを逃さないように天気予報を確認し、準備しておきましょう。

《生理落果の仕組み》

生理落果の原因は、果実と新梢や新根などの新成器官との養分競争です。着花過多の樹は、新梢などは少ないですが旧葉ばかりで養分生成が不足がちです。また、着花の少ない樹は新梢に加え、根の伸長も旺盛なため養分競争によりただでさえ少ない果実が落果してしまいます。着花が極端な樹は翌年の着果だけでなく、生理落果量や今後の果実の生育

に影響するため早い段階で着果調整をしましょう。

《着果管理》

翌年の着花確保を目的に、表年傾向の樹は生理落果終期より早期摘果に取り組みましょう。青島のように大玉となりやすい品種では、「樹冠上部摘果」や「枝別全摘果」で肥大を抑えながら結果母枝を確保します。着花が少ない樹では、品質向上効果の高い後期摘果を主体として発育枝や被さり枝の剪除をしてください。

《夏肥》

新葉が緑化するにつれ、根の活動が活発になります。地温も上昇するため吸収効率が良く、樹には品質向上としてストレスをかけるので樹勢維持や糖酸の蓄積を図るための重要な施肥となります。

・青島温州 6月上旬 みかん化成1号

・早生温州 5月下旬 ダブルクイック668 60kg／10a
40kg／10a

《病害虫防除》

今年より黒点病・チャノキイロアザミウマの防除を行います。黒点病は、防除後30日を経過するか累積降雨量が250mmになった時点で再防除を行います。降雨量はJAのホームページから確認できます。加えて、薬剤防除だけでなく伝染源の枯れ枝の除去も行ってください。また、本年は生育が7〜10日ほど早いことを念頭に適期防除や管理作業を行います。

6月上旬

・黒点病 エムダイファー水和剤 600倍(60日1〜2回)
・チャノキイロアザミウマ、カイガラムシ類 アクタラ顆粒水溶剤 2000倍(14日1〜3回)